

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」高松伏石校		
○保護者評価実施期間	2024年10月24日		～ 2024年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2024年10月24日		～ 2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士や保育士など様々な専門的知見を持った支援員がおり、専門的支援を行っている。	内部研修や外部研修に積極的に参加をし、支援の質をあげている。他校舎にいる作業療法士に意見を求めることで、より専門的な支援を行えるようにしている。	校舎内外を含めて自己研鑽のための研修への参加。
2	支援プログラムの開発	机上課題だけではなく感覚統合がスムーズに進むよう、ビジョントレーニングやコグトレなどの内容を取り入れている。ソーシャルスキルトレーニングは、利用者の環境に合わせて内容を作成している。	利用者が興味をもって活動に参加できるよう、新しいプログラムを開発していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	隣のブースの音が聞こえる。	防音対策はできていない。	パーティションを設置したり個室を活用している。音に配慮が必要な利用者には静かに支援を行える時間を案内する。
2	駐車場が狭い。	支援時間の入れ替わりなど、込み合う時間帯が発生する。	フィードバックを適切な時間内で行い、相談内容が十分な聞き取りの時間が必要な際には改めて時間を調整するなどし、安全に送迎を行えるようにする。
3	利用者の希望に応じた支援時間の提供が十分に行えていない。	職員不足による支援時間の確保ができていない。	会社内の人事異動など、適切な配置を行うよう努める。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」高松伏石校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 59名

回収数 44

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	14	3	1	狭い 混んでいる時は狭く感じる 活動の場が狭い。ボールなどで運動している子が いると気を遣う 体を動かす活動の時は狭いと思いますが、それ 以外は落ち着いて活動できていると思います。 少し場所が狭く感じます。 ボールなど運動系の遊びをしている時は場所が足 りないのでわちゃわちゃしている気がします。 学習の時は問題ありません。 狭さが気になる。偶に突然走りだすような児童が 現れると少し不安になる。 困り事に対して、楽しくアプローチしてくださっ ています。	プログラムの内容によって適切な場所を考えて支 援をさせていただいておりますが、事業所の大きさが 限られているためその時間の活動内容やお子さまの 特性で臨機応変に環境構成を考えさせてい ただいております。 教室の広さを十分に生かせるよう、環境構成やプロ グラムの内容等を考慮して安心・安全に支援を行う ように配慮いたします。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	28	12	3	1	短期間で職員の異動と退職がある。 短期に欠員している。 入れ替わりが激しくて、驚いている。 移動も多く、人員不足と感じています。	職員の異動についてご迷惑をおかけしており、申し 訳なく感じております。会社全体の問題としてとら え、安定して支援を提供できるよう取り組んでまい ります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	30	11	1	2	バーションで区切ったり、個室を使ったり工 夫されていると思います。	ありがとうございます。今後も創意工夫をしながら 支援させていただきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31	9	1	3		空き時間を活用したり、時間を決めて毎日掃除を 行っております。すべての方に心地よい空間になる よう努力いたします。
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	37	4	0	3	分からないことは次回までに調べてくださってい て、ありがたかった 支援員のスキルや知識に差があり、中には発達や 療育に関してスキル不足の人もいると感じる。ま た、人員の異動が多く、ヘルプの支援員は情報を 把握できておらず、統一した支援が受けられてい ないと感じることもある。 いつも色々な方面から苦手なことに対して少しで も出来るようにと、考えてくださっていて本当に 有り難いです。	個別支援計画に沿って支援プログラムを立てており ます。担当職員の今までの職歴等から支援内容の違 いがありますが、職員間の報連相を行っていること で計画に沿った支援を行っております。ご指摘があ りましたように、統一した支援を行えるよう、会議 やスキルアップのための研修等を充実させ、納得い ただける支援を行えるよう努力いたします。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	40	2	0	2	良く考えてくださっています。	ありがとうございます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	40	2	0	2	親とこどもの両方のニーズを汲み取ってくださっ ています。	ありがとうございます。今後も対話を大切にして計 画を作成させていただきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	34	3	0	7		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39	3	0	2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	39	1	0	4	とても工夫してくださっています。 利用回数がまだ少ないため	ありがとうございます。今後もお子様一人ひとりの 様子をフィードバックを通して伺いながら、支援に つなげていきたいと思っております。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	6	11	12	15		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	42	1	0	1		運営規定等は壁面に設置しております。わからない ことがございましたらお気軽に職員にお聞きくださ い。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	40	2	0	2		わからないことがございましたら、お気軽に職員に お聞きください。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレー ニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	17	10	3	14		今後、検討していきたいと思っております。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	42	1	0	1	毎回のフィードバックがとても丁寧	ありがとうございます。今後もお子様一人ひとりの 様子をフィードバックを通して伺いながら、支援に つなげていきたいと思っております。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	4	0	4		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	41	0	0	3	保護者が傷つかないような優しく肯定的な態度をとってください。	ありがとうございます。これからも傾聴を大切にしながら、お子様や保護者様とかわらせていただきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	14	4	20	一人っ子です。他の保護者とあまり積極的に関わりたいとは思っていません。保護者同士の関わりは要らないです。	ご意見をいただき、ありがとうございます。保護者様同士の交流を望まれている方もいらっしゃいますが、開催まで至っていない現状がございます。どのような形がよいか、検討いたします。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	30	5	0	9		ご家庭での困りごとなど、フィードバックの時間以外で相談をすることができます。家庭支援連携など、どのようなサービスがあるのか適切な形で周知できるよう、検討いたします。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	40	1	0	3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	27	6	1	10		SNSの活用することで、きらりでの活動をより積極的に発信してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	40	1	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	8	0	14		定期的に事故発生時の訓練を行っておりますが、安心して通所いただけるよう、周知方法を検討いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	7	0	20		定期的に防災訓練を行っておりますが、安心して通所いただけるよう、周知方法を検討いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27	5	0	12		定期的に事故発生時の訓練や防災訓練を行っておりますが、安心して通所いただけるよう、安全確保計画などの周知方法を検討いたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	3	0	16		安全第一で支援ができるよう、環境構成をしていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	42	2	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	37	5	0	2	本人が楽しめることばかり実施しているわけではないので仕方がない。	ご指摘をいただき、ありがとうございます。支援の基本として「きらりに来て楽しかった」と思ってもらえる支援を心掛けていきたいと思っております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	39	5	0	0	もう少し時間を長くして頂けたら助かります。	きらりは60分の個別療育を基本にしております。子どもたちが集中して取り組める時間も長くはありませんので、ご理解いただければと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」高松伏石校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	個室があることで音に敏感な子や、周りがにぎやかだと落ち着かない子の配慮を行うことができている。	パーティションなどでやりくりしているが、他児の気配や声が気になる子には対応が難しいと思うことがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	職員間の連携を取り、利用者同士の安全面に配慮している。	フィードバック中などに利用者の安全面をより配慮するためには、増員を検討する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	空間の真ん中に柱があるが、柱と壁の空間に柵を入れて危険を減らす工夫をしている。	情報コーナーの更新を随時行うようにする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	静かな環境を好む利用者には個室を使用するなどの配慮を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	パーティションなどを活用し、活動に集中できるような空間を用意している。	半個室のような部屋が1つあるが、もう1つあると望ましい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	様々な業務（ファイリングの仕方、家具の配置など）の効率化を図るために話し合いをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	定期的に保護者へ向けて評価表を配布してアンケートを依頼・回収している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	業務負担が偏らないよう、意見を出し合っている。	不公平感が大きくなりたくないよう、番川3校舎間でフォローしあえる体制を作る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	実施なし。	実施なし。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	発達支援研究所の研修など定期的に研修へ参加している。	発達心理学系に偏っているように感じる。身体的なアプローチの観点の研修もあつたらいいと思う。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	1	認知面と身体面、いろいろなアプローチからの支援をプログラム化し、見える形で提示している	利用者の心身の状態によりプログラム通りに進まない時もあるが、違うやり方で個別支援計画に沿って支援を行うようにする。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	1	正しいアセスメントができるように校舎内で注意する点を共有している。	児発管不在のため、個別支援計画（本計画）が作成できていない。新規雇用等、早急な配置を検討している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	会議や書類、ガルーン（グループウェア）上で情報を共有している。	児発管不在のため、個別支援計画（本計画）が作成・更新できていない。新規雇用等、早急な配置を検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	会議や書類、ガルーン（グループウェア）上で情報を共有している。支援前には必ず計画の確認を行い、計画に沿った支援を実施している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	NCプログラムなどのフォーマルなアセスメント、支援記録などのインフォーマルなアセスメントを合わせながら行っている。	NCプログラムの活用法を研修する必要がある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	全員が確認できるようになっておりそれをもとに支援作成ができている。	児発管不在のため、個別支援計画（本計画）が作成・更新できていない。新規雇用等、早急な配置を検討している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	担当する職員に限らず意見を交換することで、より良いプログラムの立案に努めている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	常に他の職員同士でプログラムに関して意見の交換を行い支援計画から外れないようにしている。時々何度も繰り返しする必要がある支援については繰り返し行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	児童の様子に合わせて、集団の支援も実施し職員間での連携をとっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	朝礼時に打ち合わせを行い、詳細は情報共有スペースを設けている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	社員間での連絡ツールを使用し、共有が必要な情報に関しては迅速に共有がなされている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	1	日々の支援の記録をとり、職員間や必要に応じて保護者にも提示され、支援の検証や改善に繋がられている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	1	個別支援計画の作成に際しては、必ずモニタリングが実施されて、適切に見直しを行うことができている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	0	「4つの基本活動」を意識し、机上活動だけではなく、運動も取り入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	児童が尊重される支援を行い、自己決定権を奪わないような支援が行われている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	児発管や施設管理者、主な支援担当者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	必要に応じて関係機関との連携を行うことができている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	1	3	必要に応じて関係機関との連携を行うことができている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3	必要に応じて関係機関との連携を行うことができている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	3	今年度は該当児がいなかった。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3	地域の基幹相談支援センターの研修などでスーパーバイズをいただくこともある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		放課後児童クラブや児童館との交流機会はない。ニーズがあれば行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	4		自立支援協議会への参加はしていない。ニーズがあれば行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	支援が行われたあとにフィードバックを行い支援内容や今後の課題について共通理解を持っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	支援後のフィードバックや支援中に子供とのかかわり方などの話も含めて情報提供を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	契約時に説明を行っており、情報提供スペースで開示している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	フィードバックと同時に保護者からの悩みなどがあれば相談や助言、支援を行う。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	支援計画作成や更新時に同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	必要に応じて面談を行いアセスメントを行っている。また、子育て相談会を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	3	子育て相談会を行っている。保護者が所属している活動のチラシを掲示するなどしている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	1	管理者が苦情の窓口になり、体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	月2回のブログの更新やSNSを活用した情報発信を行うことができている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	日頃より個人情報の含まれるフォルダは鍵付きの書庫に保管されている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	支援やフィードバック時に傾聴を心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	地域イベント「あそび博」を地域の子育て広場と共催し、高松市全域の幼保子ども園及び近隣小学校の支援級に案内を行い実施する。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。リモートでのマニュアル共有や実演を交えて訓練を実施出来ている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。リモートでのマニュアル共有や実演を交えて訓練を実施出来ている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	保護者との面談時にヒアリングを行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	保護者との面談時にヒアリングを行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	マニュアル類は整備しており、書庫に格納するとともに、保護者が閲覧できるよう掲示している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	安全確保計画を作成し、職員に周知徹底している。契約時に避難先など保護者に説明をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハットを校舎内で共有し、匿名にしたうえで社内でも共有している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	3か月に1回以上、社内の虐待防止研修があり参加している。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	重要事項説明書に記載しているとともに、個別支援計画にも記載している。		